

朝鮮民主主義人民共和国：チュチェの社会主義における幸福と繁栄

英国朝鮮友好協会書記

アラン・ボロン

朝鮮民主主義人民共和国創建 75 周年に際してわれわれは全面的な繁栄を成し遂げており、またこの記念日を迎えて自分たちの立派な国家の国境と離れた遠いところでもこの類を見ない記念日を慶祝していることについて確かに誇りを持つ共和国の公民の幸せにあふれる朝鮮が持っている今のこの力がどのようにもたらされたかについて振り返る必要があります。

今日、アジアの超大国の地位に上がった一つの発展した社会主義国家の力を構成する思想的源泉と基礎は何ですか。

この質問に答えるためには過去を深く振り返って見なければなりません。

社会主義建設において今日のように偉大で画期的な成果をもたらした朝鮮革命は久しい前に始まりました。

この過程の思想的基礎にはマルクス・レーニン主義に創造的に対応した模範も含まれています。朝鮮革命の進路は国際共産主義運動における一つの世界的な模範でありました。朝鮮革命は人民大衆を解放し、平等と正義に基づいた国家を建設しました。

国を解放するための朝鮮の革命的方法に関する思想、朝鮮式社会主義建設の進路はどのようにもたらされましたか。朝鮮革命の特徴は何ですか。社会主義への朝鮮の進路の特徴は何ですか。

何よりもまず、社会の革命的改造過程と社会、経済、政治など国家生活のすべての領域で革命的改造過程に現れる人間の役割を大きく強調することに注意を払うべきです。

自分固有の特徴を持った人間を中心におくチュチェ思想は人間の役割の優先権を強調しますが、チュチェとマルクス主義の不一致に対する西方社会の修正主義的見解が主張するように、それは観念論的なものではありません。

チュチェ思想がはじめて明らかにしたこのような特徴は世界における人間の特殊な役割と地位を規定します。

朝鮮革命は日本占領下での解放からアメリカ侵略者に反対する戦争での勝利、社会主義建設のための連続的な前進とこの時期に収められた数多くの成果と勝利を通じて今まで朝鮮式社会主義に基づいて隆盛繁栄する一心団結された社会へと絶えず発展しています。

日本占領の時期(1905－1945)、金日成主席はまず、朝鮮民族を日本の占領から、植民地奴隷の境遇から解放し、日本占領者に反対する人民大衆の熱意を呼び起こして朝鮮の

解放と独立を達成するための闘争を組織する方途を模索しました。

朝鮮式革命を模索する過程に主席は朝鮮民族の解放のための正しくて適合した進路を模索するためにいつも人民大衆と活動と生活をともにしました。

主席はいつも人民大衆の声に耳を傾けたし、チュチェ思想は人間生活の実践的な側面に基づいています。

ロシアでの 10 月革命の勝利(1917)は全世界の人民大衆に希望を与え、ソ連で初の社会主義建設の方向を示しました。マルクス主義哲学は全世界に革命運動を呼び起こしました。

金日成主席の著作を通してわかるように主席はマルクス主義を朝鮮の客観的、歴史的、社会的条件に照らしてみながら朝鮮解放の道を模索しました。

金日成主席は回顧録「世紀とともに」の中で

「わたしが中学時代に夜を徹して本を読んだのは、学究的な趣味や探究心のためではなかった。わたしは学者になったり出世するために本を読んだのではない。どうすれば日帝を駆逐して国を取りもどせるか、どうすれば社会の不平等をなくして勤労人民に幸せをもたらせるか、わたしが知りたかったのはそうした問題にたいする解答だった。どこでどんな本を読んでも、わたしはつねにその解答を求めた。マルクス・レーニン主義をドグマとしてではなく、実践の武器とし、真理の基準を抽象的な理論でなく、つねに朝鮮革命という具体的な実践のなかで求めようとするわたしの立場は、そのようななかで芽生えたといえよう。わたしはそのころ、『共産党宣言』『資本論』『国家と革命』『賃労働と資本』などマルクス・レーニン主義の古典とその解説書を読みあさった。政治書とならんで革命的な文学作品も多く読んだ。」と述べた。

主席はマルクス主義の文献を研究し、朝鮮解放の進路を探るための学習と思索に明け暮れました。

この日々にそして「打倒帝国主義同盟」で朝鮮革命の進路を次第に構想する過程に得た実践経験と活動の中で朝鮮式革命方法を豊かにしました。

金日成主席は回顧録「世紀とともに」の中で

「革命的世界観は、人びとが自己の階級的立場と利害関係を認識することからはじまって、搾取階級を憎み、自己の階級の利益を守ろうとする思想をもち、ひいては新しい社会を築こうという覚悟をもって革命の道に臨むときに確立されるといえよう。わたしもマルクス・レーニン主義の古典など革命的な書物を読んで自分の階級的立場に目覚め、さらに社会現象を通してこの世に不平等の多いことを知って搾取階級と搾取社会を憎悪する思想が強まり、結局、世界を改造し変革すべきだという決意をいだいてたたかいの道に立つようになったのである。マルクスとレーニンの著書を熱心に読み、それに心酔すればするほど、わたしはその革命学説を青年学生のあいだに早く広めようという衝

動に駆られた。」と述べた。

主席は朝鮮民族を解放するための綱領を作成し、社会主義建設方法をより幅広く確立する問題を客観的な歴史のおよび社会的条件のもとで新しく解決しなければなりませんでした。

朝鮮革命の進路を開拓するうえで金日成主席は社会的、経済的、軍事的側面などで多くの問題を解決しなければなりませんでした。

主席は同志たちと緊密な連携を結んで思想闘争を通じて上記の問題とマルクス主義見解との差についての論争を何回も行って朝鮮革命の進路に具現しました。

金日成主席は回顧録「世紀とともに」の中で

「わたしはあるとき彼に、プロレタリア独裁にかんするマルクス・レーニン主義創始者の命題について質問したことがある。

朴素心は、マルクス・レーニン主義創始者が歴史発展の各段階でプロレタリア独裁にかんして説いたさまざまな命題をすらすらとそらんじるのだった。理論や知識のうえでは、それこそマルクス主義の大家といえた。ところが、そんな彼にも知らないことがあり、解明できないことがあった。

わたしが、マルクス・レーニン主義の古典では労働者階級の階級的解放が先で、民族の解放はそのあとの問題だと見ているが、わが国ではなによりも日帝の支配から抜け出さなくては、労働者、農民が階級的にも解放されないのではないかとたずねたことがあった。これは当時、わたしたちのあいだで深刻に論議されていた問題である。

当時はまだ、労働者階級の階級的解放と民族的解放の相互関係について、マルクス・レーニン主義の学説は理論的な解明を十分に与えていなかった。

植民地諸国における民族解放闘争については、科学的な解明が待たれる問題が多かった。

朴素心は、わたしの質問に明快に答えることができなかった。

わたしは、マルクス・レーニン主義の古典には、一般的に宗主国の革命と植民地国の革命が有機的に結びついているとして、宗主国における革命勝利の意義のみを強調しているが、それなら、わが国の場合は日本の労働者階級が革命で勝利しなければ国の独立は果たせないのか、われわれは彼らが勝利するまで腕をこまぬいていなければならないのか、とたずねた。」

上記のように、主席は他国と他国の思想のみに依存しませんでした。主席は他人の知恵から結論を見出し、朝鮮人民の知識と経験に依拠しました。

たとえば、ロシア革命は見習う価値はあるが、朝鮮式に模倣すべき有利な根拠にはなりませんでした。それは、朝鮮の社会の階級制度や客観的な社会歴史的条件が異なっていたからです。

金日成主席は多くの論議と考察、理論的著述と遊撃闘争の実践の中で朝鮮式の革命方法と民族解放方法を提示しました。

金日成主席は回顧録「世紀とともに」の中で

「吉林での蓄積と体験はその後、わたしの自主的革命思想の骨組みをつくる礎となった。」と述べた。

1930年6月30日、カ倫で行われた共青および反帝青年同盟の指導幹部会議での主席の演説で朝鮮革命の進路が始めて著述されました。

演説で、主席は今後の朝鮮革命の根本原則について始めて明らかにしました。この原則は、自分自身への依拠と自分の力の利用、また自信に基づいています。

演説で、チュチェ思想の第一の特徴を明らかにしました。主席は朝鮮人民は他国のものを模倣するのではなく、自分の力に依拠して自分の道を行くべきであり、ひたすらこのようになってこそ朝鮮民族が日本の奴隷の境遇から解放されることができると強調しました。これが、革命の基本目的の中で自主性と団結を強調するチュチェ思想の基礎の一つでありました。

その原則はチュチェ思想の創始を導き、今日までも人類史のすべての時代の輝かしい哲学史上の業績として残っています。

チュチェ思想は今日、世界の1000余の研究組織の活動の源泉となっています。

この画期的な哲学思想に魅了された組織の中の一つがまさにイギリスのチュチェ思想研究グループです。

イギリス・チュチェ思想研究グループとともにイギリス朝鮮親善協会はチュチェ思想についての講演と研究を年間周期的に行っており、これは多くの参加者から大きな人気を呼び起こしています。現在、われわれは図書とパンフレットを出版してチュチェ思想を普及しています。

代表的な図書とパンフレットを見ると、ダーモット・ハドソン博士とアラン・ボロンが共同で執筆した「チュチェ哲学講習要綱」と「イギリス朝鮮親善協会チュチェ哲学講習案」です。

これは、彼自身の講義に基づいて執筆したチュチェ思想研究のための幅広くて詳細で包括的な教本であります。さらにわれわれはチュチェ思想の研究を幅広くて科学的な側面で深く行っています。この過程に出版されたのが「チュチェ哲学の指導のもとに収められた社会的存在としての人間の発展に関する理論の基礎と社会生活」第1篇であり、チュチェ思想研究で今後の進歩の側面で引き続き拡大されるでしょう。

主席が1930年、カ倫で行った歴史的な演説を見ると、われわれは主席が人民大衆を日本占領者に反対する闘争へと動員させる花火をつけ、朝鮮革命の巨大な炎を燃やしたといえます。

この歴史的な演説の意義は実に大きいです。演説は積極的な武装闘争による解放運動の過程に提起される難関と試練を乗り越える道へと人民大衆を組織的に、すべての統一戦線に準備させました。

金日成主席は次のように述べています。

「朝鮮革命を成功裏に遂行するためには、つぎに、党創立活動を積極的におし進めなければなりません。朝鮮革命を勝利に導くためには、革命の参謀部であるマルクス・レーニン主義党をもたなければなりません。革命的な党がなければ、正しい路線と戦略・戦術を立て、広範な大衆を日本帝国主義を打倒するたたかいに奮い起こすことも、社会主義・共産主義社会を建設することもできません。」

今は親西方日和見主義の影響とともに現代修正主義が革命的共産主義党である朝鮮労働党の真の権威を歪曲しようとしている時代です。

朝鮮解放の革命的進路はチュチェ思想に基づいています。チュチェ思想は朝鮮の実情に基づいて朝鮮革命の歴史的過程に築かれた経験を拡大した独創的な思想であります。

帝国主義の搾取下にあり、また完全な自主性のために闘争する民族の解放で一つのモデルになることができ、またなるべき朝鮮民族の限りない精神のケースです。

1945年、朝鮮民主主義人民共和国が創建された後、朝鮮革命は新しい人民共和国の歴史的要求に即して発展しました。朝鮮革命は金日成主席によって、また金正日総書記によって思想、技術、文化の3大分野へと発展しました。

朝鮮革命のこの「三つの側面」は今日のような近代的で発展した人民民主主義国家を建設させました。

社会主義への朝鮮の進路は特に立派であり、独特です。朝鮮の社会主義はいくつものならない社会主義諸国の中の一国として真実であり強固な社会主義であり、金日成主席がチュチェ思想で人間を中心に据えて定立した人民大衆の思想の上に強固に建設したことにより、世界的範囲で唯一無二の社会主義であります。

朝鮮革命はいかなる形態の革命の複製ではなく自己方式の方法と精神を持っています。

朝鮮民主主義人民共和国は数十年間、驚くべき発展を成し遂げ、この革命の進路は社会経済関係で完全な共産主義という一つの偉大な目標の達成に近く接近しました。

世界のどの国も朝鮮民主主義人民共和国のように共産主義国家の理想に近づいた国はないし、これは朝鮮人民が金正恩総書記を最高の首位にいただいて金日成主席と金正日総書記が明らかにした社会主義の道に従って屈せず、たゆまなく前進してきた結果であります。

白頭山の不拔の精神、朝鮮の初のパルチザンの闘争と犠牲精神は、朝鮮人民の心の中に永遠に残っているだろうし、朝鮮革命の進路、完全な共産主義への成功的な行軍進路

を象徴し、明らかにするでしょう。

幅広い社会的保護を伴う無料治療制と住宅の無料供給、税金のないこと、これは朝鮮民主主義人民共和国を真の社会主義国家、人民に親切で、彼らの要求の実現を基本とする社会制度、人民の生活条件を徹底的に向上させる社会主義の楽園になるようにする多くの特徴の中の一部であります。

朝鮮民主主義人民共和国は自分の価値と成果を貴ぶ国です。それは残念ながら敵が多いからです。敵は朝鮮民主主義人民共和国が創建される前にも、創建された後にも存在してきました。

創建以後、アメリカ主導下に帝国主義諸国は人民朝鮮に反対する激しい敵対行為を行ってきました。

したがって、朝鮮民主主義人民共和国は自分の社会政治制度を固守すべきであり、敵対行為のいかなる企図にも常に警戒心を高め、注目を払うべきです。

朝鮮親善協会の創始者であり、委員長であるアレハンドル・カオ・デー・ベノスは次のように言いました。

「人間は自分の父と自身、また他人を侮辱し、自分を脅威し束縛する人間に絶対に家の門を開けないでしょう。

人々は何かわからないことがある。もし、朝鮮民主主義人民共和国が黒い穴だといえれば、人々は朝鮮民主主義人民共和国について何も知らないというべきである。

朝鮮民主主義人民共和国は神秘的な国である。朝鮮民主主義人民共和国は神秘的な国である。それは事実である。

朝鮮民主主義人民共和国が神秘的な国であることを皆さんはわかるようになるだろう。」（映画「宣伝競争」）

実に朝鮮民主主義人民共和国は皆であります。この皆は人民のために幸せな国として数十年間強化されてきました。

朝鮮民主主義人民共和国はそれぞれの公民が自分の将来と発展を最大限に発揮させて暮らす国、自分の当然の念願と要求をいかなる障害もなく実現する国であります。

資本主義諸国の場合と違ってどんな利己的な動機や利益のためではなく、すべての人の幸せのための国、全社会の福祉のための国であります。したがってこの国では強い社会的規律性が存在し、祖国の福祉と祖国の発展のための活動が繰り広げられています。

朝鮮民主主義人民共和国は完全な独立国家であります。自立的で、政治、経済など社会領域でどこにも、誰にも依存しない国家であります。朝鮮民主主義人民共和国は人民大衆が政権を握っている国であります。

これは、朝鮮民主主義人民共和国の各公民が民主選挙に参加し、自分の意思と考えを表現するということを意味します。

支配階級が独裁を実施し、国家政権を握って多くの資本主義株式会社とか生産資源の所有者のブルジョア的利益を保障する意思を表明する帝国主義諸国とは違います。

朝鮮民主主義人民共和国の経済は中央的な計画によって計画され、個別的な所有者の利益ではなく、社会の要求に服従する経済であります。朝鮮民主主義人民共和国国家は社会経済生活のすべての分野を人間と人間の要求に中心をおいたチュチェ思想の要求どおり管理します。

人民朝鮮が発展してきたさる 10 年間はその進路が最初から、基礎から全的に正しかったことをはっきりと示しています。朝鮮人民の軍事力と経済力は強まっています。朝鮮民主主義人民共和国は現時代の「アジア超大国」であります。

これらはすべてアメリカを頭とする敵対的な帝国主義諸国が造成した難関と試練を乗り越えて収められているのです。また敵対的な宣伝と多くの経済制裁の中で収められているのです。人間をあらゆるものの中心においたチュチェ思想は敬愛する金正恩総書記の指導のもとに人民朝鮮、チュチェ朝鮮を共産主義への行軍の道で新たな勝利と栄えある成果を収めるように導いています。